

釣塔大学新聞

試験でカンニング

不正者は停学処分

7月29日、基礎化学の試験中にカンニング行為が発見された。カンニングをしたのは、軍事学部2年の菅仁樞太と武山寿磨であると発表されている。

菅仁らは試験中、シャープペンシルと消しゴムの音でモールス信号を使ってわからない問題を相談していたとされる。試験監督はカンニング行為に全く気付かなかったが、試験中にたまたま近くを通った浦和教授が室内から聞こえてくる音に気づ

き、発覚することとなった。

学部長の四方田清作教授は「軍事学部内でこのようなことが起こってしまい誠に遺憾だ。試験中は職員が常に目を光らせているのでカンニング行為などしないように。次にこのようなことが発覚した場合は見せしめが必要かもしれないので尋問室を開けておくことにしましょう。」と語った。

二人は反省していることもあり、停学1カ月の処分となった。

高崎キャンパス

ルパンごっこ大流行 被害は校外にも

高崎キャンパスでは今、不思議な遊びが流行している。ルパンごっこと呼ばれるこの遊びは、店から出た後すぐ同じ店に走って戻り、「今俺が来なかった？」と店員に尋ねるものだ。その後店員には「バカヤロウそいつがルパンだ！変装にも気づけないのか」と罵声を浴びせる。

この遊びが流行るに至った経緯は不明だが、被害は生協、食堂、図書館、事務所、はたまた校外の店にまで及んでいる。高崎キャンパス事務局は「遊ぶのは一向に構わないが、他人の迷惑にならないような遊びをするように」とコメントしている。他キャンパスからは「大学生にも

国際フィッシングシンポジウム開催 つくばキャンパスで

7月16日につくばキャンパス、安甲講堂で国際フィッシングシンポジウムが開催された。釣塔大学で開催されるのは第一回国際フィッシングシンポジウム開催以来二度目である。シンポジウムでは釣塔大学フィッシング研究学部長の大先教授の実演を交えた講演会や、大先教授をはじめとする、世界最先端のフィッシング研究の学者7名によるパネルディスカッションなどが行われた。

今回のシンポジウムについて、IFA(国際フィッシング協会)会長のツール・ド・フラダンス氏は「とても有意義なシンポジウムだった。さらなるフィッシング技術向上のためにこれからもフィッシング研究に努めなくてはならない。」と語った。またその一方で、近年増加した釣りがエスカレートしたことによる犯罪について「このようなことが増加したのはとても悲しいことです。釣りとは犯罪の境界をしっかりと見定めてほしい。釣りは楽しむべきものなのです。」と警鐘を鳴らした。

今回のシンポジウムは来年7月にロシアのスコトロジーでの開催が予定されている。

なつて恥ずかしい」「流石は脳筋、考えが分からん」など、批判の声が上がっている。

本格焼酎

大陰唇

露草留紺流

最近、つくばキャンパス内でサークル同士の問題が水面下で勃発している。

本格フィッシング部、通称シーマネ(sea manage fishingの略)は月に数度、東京湾や霞ヶ浦で本格的な釣りをを行うサークルである。また、塔大ホスト部、通称チヨン集団(「釣塔のウンコ」の略)は名の通り、自称リア充(〇)を名乗る塔大生のゴミが集う糞サークルである。

いずれのサークルも釣塔会文化連合会に所属しており、それぞれサークル棟B棟の3階に部室を置いている。2つの部室の間には空き部屋が1つあり、この空き部屋こそが2サークルの領土問題になっている。

シーマネの竹島 隠岐部長は「元々は私達の部屋。遺憾の意を表します」とコメント。その一方、チヨン集団の意を表します」とコメント。その一方、チヨン集団の独島 鬱陵部長は「我々が実効支配している。竹島部長には早急に謝罪を要求する」とコメント。

大学側は、シーマネの意見を尊重し今月中にチヨン集団に撤退を呼び掛ける見通しである。同じ3階に部室を置く我々も、チヨン集団の魔の手にかからぬように気を付けねばなるまい。

二ダの壁

「話せばわかる」なんて大うそ!
見えない「壁」がわかると朝鮮が見えてくる。